

日本福祉大学 スポーツ科学センター一年報 令和7年度版



目 次

1. はじめに	—センター長挨拶—	p.1
2. スポーツ科学センターの活動		p.2
3. スポーツ強化支援政策		p.3
1)	リーダーズキャンプ	p.3
2)	主務・マネージャー研修会	p.8
3)	SMT 講習会	p.12
4)	スポーツ栄養講習・調理実習	P.15
5)	女性アスリートサポート事業	P.18
6)	各部の活動報告	p.23
7)	指導者研修	p.41
4. 日福スポーツデー		p.43
5. みはまスポーツクラブの活動支援		p.45
6. 地域貢献活動		
1)	第3回日本福祉大学マリンカップ	p.47
2)	水泳教室	p.50

1. はじめに　－センター長挨拶－

2025年度スポーツ科学センター年報の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本学スポーツ科学センターは、これまで「スポーツ系特別強化指定部・強化支援部への活動支援」「地域住民を対象としたスポーツ・プログラムの提供」「地域連携・スポーツクラブ事業」の三つの柱を軸に、学内外におけるスポーツ活動の充実と発展に取り組んでまいりました。本年度も大きな方向性を変えることなく、これらの事業を継続・発展させる一年となりました。

2025年度の大きな試みとして、各強化指定部の部長、監督、幹部学生との定期的なミーティングを新たに実施しました。競技現場が抱える課題や要望を直接共有し、組織として迅速かつ柔軟に対応することで、より活動しやすい環境の整備を進めることができました。競技力向上のみならず、学生の主体性や組織運営力の育成という観点からも、非常に意義深い取り組みであったと考えています。

また、今後ますます加速する部活動の地域移行を見据え、地域貢献の在り方についても学内外で議論を重ねてきました。地域の関係機関や指導者と連携しながら、大学スポーツが果たすべき役割を再確認し、持続可能なスポーツ環境の構築に向けた検討を進めています。

さらに、本年度は本学バラスポーツ研究所と協働し、スポーツ選手に対する医科学サポート体制の確立に向けた検討を本格的にスタートすることができました。競技特性や障がい特性を踏まえた科学的支援は、競技力向上と安全管理の両立に不可欠であり、今後の本学スポーツ支援の大きな基盤となることが期待されます。

今後もスポーツ科学センターは、教育・研究・地域貢献を横断するハブとしての役割を果たしながら、学生・指導者・地域社会とともに歩んでまいります。本年報が、本センターの取り組みと今後の展望をご理解いただく一助となれば幸いです。

スポーツ科学センター長
三井 利仁

2. スポーツ科学センターの活動

(1) 活動目的

- 1) スポーツに関する学生教育
- 2) 課外活動の支援
- 3) 地域と連携した教育実践活動など、本学の特色を生かした総合的なスポーツ振興に関する諸施策を立案し、事業を推進する

(2) 2025年度の主な活動

- 1) みはまスポーツクラブ事業の展開 (4月～2026年3月)
 - 2) SMT (スポーツメンタルトレーニング) 講習会開催 (6月～10月)
 - 3) スポーツカウンセリングの実施
 - 4) 日福スポーツデー開催 (6月9日、12月8・9日)
 - 5) にっぶくスポーツ DAY 開催 (11月1日)
 - ・水泳教室
 - ・少年野球教室
 - ・サッカー教室
 - 6) リーダーズキャンプ開催 (2月28日)
 - 7) 女性アスリートサポート事業実施 (1月24日・3月16日)
 - 8) 日本福祉大学マリンカップ開催 (1月24・25日)
 - 9) スポーツ栄養講習会実施 (2月2・5・6日)
 - 10) 日本福祉大学杯少年サッカー大会開催 (2月14日)
 - 11) 主務・マネージャー研修会開催 (3月6日)
 - 12) UNIVAS との連携 (管理者研修、指導者研修参加)
- 特別強化指定制度対象部活動スタッフ研修開催 (2月28日)

3. スポーツ強化支援政策

1) リーダーズキャンプ

- 主 旨**
- ① リーダーとして必要な知識・教養を身につけること
 - ② 他の部活のリーダーと話をすることによって情報や悩み等を共有し、今後、コミュニケーションが取れる関係を築くこと

日 時 2026年2月28日(土) 13:00～15:00 (対面にて実施)

協 力 NPO 法人 Shape the Dream

参加者

25年度リーダーズキャンプ 参加者一覧			
	部活動名	役職	
1	女子バスケットボール部	キャプテン	
2	女子バスケットボール部	副キャプテン	
3	硬式テニス部	副主将	
4	男子バスケットボール部	主将	
5	男子バスケットボール部	副主将	
6	水泳部	主将	
7	水泳部	副主将	
8	女子ソフトボール部	主将	
9	女子ソフトボール部	副主将	変更
10	ゴルフ部	主将	
11	サッカー部	副主将	
12	ラグビー部	主将	遅刻
13	ラグビー部	副主将	遅刻
14	陸上競技部	副主将	
15	ダンス部	主将	
16	バドミントン部	主将	
17	弓道部	男子主将	
18	弓道部	女子主将	
19	合奏研究会吹奏楽団	主務	
20	硬式野球部	主将	
21	硬式野球部	副主将	
22	アメリカンフットボール部	副主将	
23	アメリカンフットボール部	ディフェンスリーダー	
		※順不同	
		※男子ソフト部、卓球部不参加	

自己紹介



有明 葵衣 (ありあけ あおい)

競技：バスケットボール

- NPO法人Shape the Dream 副代表理事
- 富士通株式会社 企業スポーツ推進室所属
- 一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ (WJBL) 理事
- 3x3現役選手 TOKYO BB所属

- ✓ 秋田県大仙市 (大曲市) 出身 ※花火の街「大曲の花火」
- ✓ 小学校、中学校、高校、大学、WJBLのすべてのカテゴリーで主将を経験
- ✓ U-18日本代表、U-22ユニバーシアード日本代表
- ✓ 2009～2015年まで富士通レッドウェーブ (WJBL) で選手として活動
- ✓ 2018年より3x3 (3人制バスケット) で現役復帰
- ✓ 資格：中学校・高校保健体育教員免許
花火鑑賞士、スポーツリズムトレーニング (STAR)



Agenda



研修内容

- ① リーダーとリーダーシップの違い
- ② PERSONAL VALUE (あなたの価値観)
- ③ 心理的安全性と多様性について
- ④ わたしのリーダーシップを考える

研修の様子





参加者の感想（そのまますを記載）

- チームを引っ張っていく役割としてのリーダーシップが分からず発揮できていなかったが、本日の研修でそれぞれが持っているオリジナルの影響があることを知ることができたため、自分にできる、得意なことからリーダーシップをとりチームを引っ張っていけるようにしていきたいと感じた。
- リーダーシップは誰でも発揮することができるかと分かり、1人に任せすぎてはいけないということが分かった。心理的安全性という言葉は初めて聞き、重要性和環境づくりが

必要だと分かった。

- リーダーの姿がチームに影響する事を学んだ
- 私自身も完璧でカリスマ性がある人がリーダーだと思っていた。しかし、チームに安心を感じさせる人がリーダーだと学んだ。自分自身は小さい役職だが、今日のことを活かしていきたい。
- 「リーダーはこうあるべき」という自分の中の考え方があり、キャプテンだからこうでないといけないというのはなく、むしろ周りの意見をもっと聞いて頼ったり、周りがついていきたいと思えるようなリーダーになりたいと感じました。
- 副キャプテンを担っていく上で完璧でなくても良いのだと知ることができ、今までの自分の考えにはなかった考えを知ることができ良かった。
- 一人ひとりの価値観が違うのは分かっていたが、理由などを聞くと納得する部分もありました。
- 自分がしたいことを書き出すことによって、何をしていきたいのかを明確にすることが出来た。信頼性を作っていきたいと思った。
- 今まで自分が頑張らなきゃいけないと考えて行動してきたがもっと周りを頼っていいということが学ぶことができたので良かった。
- 主将として自分のチームを作り上げるにはどうすればいいのかわからなくなっていたが、チームはみんなの意見を取り入れて全員で作るものだと感じた。その中に自分のオリジナルのリーダーシップを落とし込むことによって部員全員が居心地の良い部活になるのかなと感じた。
- 今まで自分はリーダーという存在は責任感が強くその人が軸になる立場であると思っていたが、他者を頼り他者を参考にすることも大切な方だと思えた。
- 自分自身だけでなく、周りの人と支え合い、共感し合えるような土壌を作っていくことが大切だということがわかった。
- 感想でも話させてもらったが、本を読んだことが中で腑に落ちなかったり上手く理解できていなかったところを分かりやすく伝えて頂いた。これまでの行動を振り返るきっかけにもなったし、またあの本を読みたいと思った
- 僕らリーダーの立場の人が本日の講義を受けることも大事だと思いますが、監督や他のチームメンバーも参加した方がより良いチーム作りには効果的なのかと思った。特に監督は受講すべきであると思いました。
- 色んな人の価値観を聞いてみてすごく納得する部分しかなかった。それを踏まえて同じ部の人も色んな価値観をもっておりそれをしっかり聞いて理解する必要があると思った。共感できる部分があるはず。
- 自分を知って、型をもつことがチームの中必要であるのだと知る事が出来ました。
- リーダーシップをとらなければいけないことはもちろんであるが、その中で周りの人の立場から見た自分の姿ももう一度見つめ直していきたいと感じた

- とてもこれからの自分につながるものがたくさんありこれからのチームに今日学んだことをつなげていきたいと思いました。
- リーダだけがリーダーシップを発揮するのではなく、部員全体が言いやすい雰囲気をつくることや、リーダーシップを発揮できる環境が成功するチームのポイントであるということ。
- 今日のプログラムで自分が今まで後輩ととっていたコミュニケーションが合っていたことに気づけた。これからのチームの再建に必要な知識を身につけることができた。
- 話を聞いて今のチームにコミュニケーションが足りないと感じました。相手の事を知ることも自分のことを知ってもらうことも大切なことだと知ることができました
- 私自身、部活動のシステムや体制についてとても悩んでいたタイミングだったため、今回のプログラムの内容はとても参考になった。
- もっと周りを頼っていいんだなと感じたし。ネットワーク型のリーダーになるためにやっていきたいなと感じた。部員のことをもっと知りたいと感じました

総括

今年度のリーダーズキャンプは、6年連続となるが NPO 法人 Shape the Dream さん協力のもとで実施した。特別強化指定部・強化支援部 15 部活から合計 23 名が参加した。研修内容として例年と同じ「自分の価値を知り、新しいリーダーシップを考える」をテーマに 2 時間の講義・グループワークを行った。

各部で主将やキャプテンとして部を牽引しているメンバーが集まり、講義の中で自分自身の理想とするリーダー像を考えてみたり、他のメンバーの意見を聞いたりする中で、新しい気づきや学びを得る機会となった。特に同じ学部のメンバーとは日頃から顔を合わせたり、話をしたりする機会が多いが、他学部の学生と交流することで、講習やグループワークの違った雰囲気を体験することができたと感じる。

これから新シーズンに向けて活動していく中で、本研修会での学びを活かしていくとともに、本研修会でできた部活動間の繋がりやリーダー同士の繋がりを大切にしていってほしい。

(文責 中尾綾)

2) 主務・マネージャー研修会

主 旨 主務・マネージャーの役割について理解を得ると共に、他の強化指定部との交流・情報共有を行うことで各部活動の発展につなげる。

日 時 2026年3月6日(金) 9:20 集合 9:20-12:00 研修会

場 所 SALTO4階スポーツ科学演習室

対 象 日本福祉大学強化指定部・支援部に所属する主務またはマネージャー

内 容

9:20	SALTO4階スポーツ科学演習室集合
9:20-9:25	開会式
9:25-10:55	25年度振り返り発表(各部5分)×17部活
10:55-11:15	休憩
11:15-12:15	26年度目標設定
12:15-12:30	振り返り・解散

《内容》

1. 2025年度各部活動における主務としての役割及び振り返り

2025年度の主務・マネージャー研修会では、強化指定部および支援部より、各部活動における主務の役割と1年間の振り返りについて、5分程度の発表を行った。発表を通じて、各部の現状や課題が明確になり、主務として自分が果たすべき役割に真剣に向き合っている様子がうかがえた。中には、情報共有や役割分担が徹底され、高いレベルで主務業務を遂行している部も見られた一方で、引き継ぎが不十分で役割の移譲がうまく機能していない部も存在した。本研修は、各部が互いの取り組みを知り、改善点を共有する貴重な機会となり、今後の組織運営の質向上につながることを期待される。

2. 2026年度主務としての目標設定

① Q1：言葉の定義 主務・マネージャーの役割とは？

各部の回答から、主務は「外部との窓口」「チーム運営の中核」「申請・会議・調整などの事務的業務」を担う存在として認識されていた。一方、マネージャーは「選手のサポート」「練習・試合環境の整備」「内部コミュニケーションの促進」など、選手に近い立場で支える役割が中心であった。多くの部が共通して、主務とマネージャーは“裏方”ではなく、チームの基盤を支える重要なポジションであると捉えており、情報共有・連携の重要性が強調されていた。

(例：「主務は外部との関わりに責任をもってやる」「マネージャーは選手が最大限のパフォーマンスをできるよう支える」)

② Q2：現在地を知る 現在のチーム状況と自分自身の状況は？

多くの部が「情報共有不足」「仕事量の偏り」「引き継ぎの不十分さ」「規律の緩み」などの課題を挙げていた。一方で、学年間の仲の良さやコミュニケーションの取りやすさを強みとする部も多かった。自身の状況としては、主務・マネージャー業務への不安、責任感の不足、選手との関係構築の難しさなどが挙げられたが、同時に「仕事を覚えて貢献したい」「環境を良くしたい」という前向きな姿勢も多く見られた。

(例：「主務同士のコミュニケーションが少なく申請漏れが起きる」「仕事量に偏りがある」)

③ Q3：2026年度どのように役割を果たしていくか？

来年度に向けては、「選手が安心して競技に集中できる環境づくり」「情報共有の徹底」「引き継ぎの強化」「新入生サポート」「チームの雰囲気づくり」など、組織運営の質を高める意欲が多く示された。また、主務としての責任感を高め、外部との調整や申請業務を確実に行うこと、マネージャーとして選手のコンディション管理や精神的サポートを強化することなど、役割に応じた具体的な目標も挙げられた。

(例：「選手がプレーに集中できる環境を整える」「主務の業務を可視化し誰でも対応できるようにする」)

3. 本研修に参加しての感想

参加者からは「他部活の取り組みを知ることができた」「主務・マネージャーの重要性を再認識した」「同じ悩みを共有できて心強かった」など、学びと気づきが多かったという声が寄せられた。特に、情報共有の重要性や、主務・マネージャーがチームの“土台”であるという認識が深まったという意見が多い。また、他部の工夫を自チームに還元したいという前向きな姿勢も多く見られ、研修が今後のチーム運営に良い影響を与えることが期待される。

《まとめ》

今回の主務・マネージャー研修会では、各部から2025年度の活動状況や主務として行っていることについて発表が行われ、チーム運営の現状と課題が明確になった。情報共有の不足や引き継ぎの難しさなど共通する課題がある一方で、主体的に役割を果たし高いレベルで運営を行っている部も見られた。学生からは「他部の取り組みを知れて参考になった」「主務の重要性を再認識した」といった声が多く、役割への理解が深まった様子がうかがえた。

例年と比べて自覚と責任感を持って今後の活動に取り組もうとする学生が増えていると強く感じた。主務・マネージャーはチームの基盤を支える重要な役割であり、今回の学びを各部が持ち帰り、より良い組織運営につなげていくことを期待したい。

資料提出に関する記録

本研修会の実施にあたり、各部には事前に発表用パワーポイント資料の提出を依頼していた。多くのクラブが期限内に提出する中、卓球部については複数回の連絡を行ったものの提出が確認できず、最終的に当日の朝に LINE を通じて提出があった。

(文責 坂口結子)

25 年度主務マネージャー研修_名簿

部活動	役職	
野球部	主務	欠席
	副主務	
女子ソフトボール部	主務	
	副主務	
サッカー部	主務	
	主務	
女子バスケ部	主務	
	副主務	
ラグビー部	MG	
	MG	
アメフト部	主務	
弓道部	主務	
硬式テニス部	主務	
	主務	
ゴルフ部	主務	
	選手	
水泳部	MG	
卓球部	主務	
	主務	
男子ソフトボール部	主務	
男子バスケットボール部	選手	
バドミントン部	主務	

	主務
陸上部	主務
合奏研	主務
	主務
ダンス部	主務
	選手



3) SMT 講習会

目 的

心理面の向上を目的としたスポーツメンタルトレーニング (SMT) の理論と技法について学ぶ機会を設け、本学特別強化指定部・強化支援部の学生が競技力の向上を図るための心理スキルを獲得出来るようなサポートを行うこと。

参加者 (対象：特別強化指定部・支援部に所属する学生)

14名 (6部活動)

担当者

中尾 綾 (スポーツ科学センター・日本スポーツ心理学会認定 SMT 指導士)

福井 邦宗 (スポーツ科学センター・日本スポーツ心理学会認定 SMT 指導士)

講習プログラムおよび日程

回	日 時	内 容	担当者
1	6月19日(木) 13:25～	開講式, 自己理解	福井
2	7月3日(木) 13:25～	ヴィジョントレーニング	福井
3	7月17日(木) 13:25～	チームビルディング	福井
4	9月18日(木) 13:25～	クラスタリング	中尾
5	9月25日(木) 13:25～	モチベーションビデオ作成	中尾
6	10月16日(木) 13:25～	モチベーションビデオ発表, 修了式	中尾

今年度の振り返りと次年度に向けて

今年度の SMT 講習会には 14 名の学生が参加した。今年度はより実践的な内容を取り入れ、学生が体験できる学びの機会を提供した。具体的には、スポーツにおける視野をテーマにしたヴィジョントレーニング、自己分析をテーマにしたクラスタリング、チーム力向上に向けたチームビルディングの実践である。受講生は例年以上に意欲的な態度で取り組んでいた。

プログラムを終えた受講生からは、「チームについて考える時間、チームのために動くことが意識的に増えた」「自分の意見をしっかりと伝えられるようになった」「他部活とのコミュニケーションがたくさんとれた」などの感想があった。

次年度に向けては、受講生などの意見を参考に内容を検討してブラッシュアップを図りたい。

(文責 中尾綾)

研修会の様子





4) スポーツ栄養講習・調理実習

目的

食事は生きるためのものであり、さらには運動のパフォーマンスも向上させるものでもある。そこで、自炊や栄養を学ぶお手伝いとして、昨年度より調理実習を企画・実施している。調理実習は、初歩的な調理技術を身に付け、目的に沿った献立により食事を摂り、食品を選択する力を身に付けることがねらいである。

調理ができる学生、できない学生と一緒に学び、調理の楽しさを感じとり、競技力につなげ、自分磨きに役立てることを目的とする。

参加者

21名：サッカー部・女子ソフトボール部・女子バスケットボール部・男子ソフトボール部・水泳部

日時

調理実習：2026年2月5日（木）9時～13時頃

事前講習（Zoom）：2026年2月2日（月）17時～18時

事後講習（Zoom）：2026年2月6日（金）17時～18時

講師

山本 和恵 先生（スポーツ科学部）

主催・運営協力

スポーツ科学センター・NFU

講習内容

オンラインにて行ったスポーツ栄養講習会では、基礎栄養学をテーマにエネルギー量、野菜や果実の機能について学んだ。オンラインではあったが、学んだことを発言してもらうことでアウトプットする機会となり、学びが深まった。

調理実習内容（昨年度同様）

	献立名		献立名
主食	ご飯・ドライカレー	汁物	きのこスープ
主菜	豚肉のピカタ	乳	ヨーグルト
副菜	野菜添え	果物	季節の果物

平均（E1,223kcal、P60.5g、F26.8g、C181.5g、食物繊維 11.8g）

※部活動ごとに分かれ、上記献立の調理を実施した。

総括

今年度は、昨年度の振り返りを踏まえて事前講習と調理実習に加えて事後講習を行う全3日間の講習および実習を行った。1週間で全3回の日程を設定したため、少しタイトなスケジュールに感じる部分もあったが、講習での学びと実践が結びつきやすく参加した学生も意欲的な姿勢で取り組んでくれた。事前・事後のオンライン講習では、一方向の講習ではなく、学んだことを学生に発言してもらったことで、アウトプット機会の提供につながった。

部活動ごとに分かれて行った調理実習では、役割分担を行いながら協力して調理しており、どの部も楽しみながら行っている様子が印象的であった。昨年度は当日に欠席する人もいたが、今年度は欠席の場合は代理の部員を立てることを伝えたこともあり、欠席者はおらず準備した食材を無駄にすることなく使い切ることができた。

事後講習会で強調して伝えたことは、この学びを今後の部活動にどう活かすかが重要であるということだ。参加した学生の意識や行動を変える支援になるよう継続して働きかけていきたい。次年度に向けては、調理するメニューを学生に考案してもらうような実習内容を検討していく。

(文責 中尾綾)

調理実習の様子





5) 女性アスリートサポート事業

2025年度 女子学生対象月経講習会

主 旨

本講座では、スポーツに関わる学生として必ず理解しておくべき「性」に関する基礎知識を学ぶものである。特に、女性アスリートにとって月経はコンディションや競技力に大きく影響する重要なテーマである。また、月経に伴う体調変化や競技への影響を適切にマネジメントするためには、基礎的な身体の仕組みを理解するとともに、ピルを含む選択肢について正しい知識を身につけることが欠かせない。本講座では、専門家による科学的で分かりやすい解説を通じて、月経とスポーツの関係について理解を深め、より良い競技環境づくりと自身の健康管理に役立てることを目的とする。

講 師 豊橋まちなかウィメンズヘルスクリニック院長
宮本由記 氏

実 施 日 2026年3月16日(月)

時 間 9:00-11:00

対 象 強化指定部・支援部に所属する女子学生

総 評

【講習内容】

今回の月経講習会では、まず女性アスリートの健康管理において重要とされる「三主徴」について詳しい解説が行われた。エネルギー不足が無月経や骨の問題を引き起こす仕組みを理解し、日常的に適切な栄養と休養を確保する必要性が示された。また、月経痛への対応として、痛み止めは適切に使用すれば効果が弱くなることはなく、我慢せず活用すべきであるという正しい知識が共有された。さらに、ホルモン剤やピルの基本的な作用と使い方について説明があり、月経周期の調整や症状緩和に有効な選択肢であることが示された。現在の身体を大切にすることが将来の健康や妊娠などのライフイベントに影響するという視点を学ぶ、有意義な講習会であった。

【感想】 アンケート結果より

■月経症状への理解

- 月経痛・PMS について理解が深まった
- 痛み止めは我慢せず使ってよいことを知った
- 月経コントロールはしても良いことだとはじめて知った
- 月経不順・無月経のリスクを理解した

■ピル・ホルモン剤への理解

- ピルの仕組み・効果・安全性を知り安心した

- 副作用への不安が軽減した
- 婦人科受診への心理的ハードルが下がった

■コンディショニング・生活習慣の理解

- 栄養・休養・運動のバランスが月経に影響することを理解した
- 食事量の不足や過度なダイエットの危険性を認識した
- 自分の身体を把握し管理する重要性を実感した

などが挙げられた。さらに、月経症状には個人差が大きく、他者への理解や適切なサポートの重要性を実感したという意見も多く寄せられた。月経と向き合い、自身の身体を把握し管理する意識を高める有意義な講習会であった。

【まとめ】

今回の講習会では、月経痛やPMSの仕組み、痛み止めの正しい使用方法、月経をピルなどで安全にコントロールできることなど、これまで十分に知られていなかった知識を多く学ぶ機会となった。月経不順や無月経が健康やパフォーマンスに影響すること、栄養・休養・運動のバランスが月経に深く関わることへの理解も深まり、自身の身体を把握し生活習慣を見直したいという声が多く見られた。また、月経症状には個人差が大きく、他者への理解や適切なサポートの重要性を認識した学生も多かった。

これらの学びを通じ、月経とコンディショニングの関係を正しく理解することは、競技力向上につながる取り組みであり、仲間への理解を深める機会にもなると感じた。学生が自分の身体と向き合い、適切に対処する姿勢を持てたことは大きな成果である。

文責：坂口結子



2025年度 スポーツ医学の観点から学ぶ『知っておきたい身体の基礎知識』

主 旨 本講座では、スポーツに関わる学生として必ず理解しておくべき「性」に関する基礎知識を学ぶものである。特に、女性の身体に起こる月経については、競技力向上やチーム運営において重要なテーマである。月経は女性アスリートのコンディションに大きく影響する一方で、男子学生が学ぶ機会は多くない。正しい知識を身につけることで、競技現場における配慮やコミュニケーションが円滑となり、互いを尊重し合う環境づくりにつながる。専門家による科学的で分かりやすい解説を通じて、性に関する理解を深め、より良いチームづくりに資することを目的とする。

講 師 筑波大学附属病院 水戸地域医療教育センター 日本水泳連盟 医事委員
辰村 正紀 氏

実 施 日 2026年1月24日（土）

時 間 13:00-15:00

対 象 強化指定部・支援部に所属する男子学生

総 評

【講習内容】

女性の健康問題という題名で、月経に関する内容を話していただいた。内容は月経に関する基礎知識として、月経に関するホルモンを中心とした機序、月経随伴症状、月経困難症（PMS）、生理用品について、日本水泳連盟での取り組みであった。その後、5人程度のグループでグループワークを行った。Q1は『本日初めて知ったことを話しましょう』、Q2は『自分のパートナーや家族の月経ケアで大切にすべき点を話しましょう』、Q3は『自分の周囲（学校や自宅など）で月経に対する改善すべき点がないか話しましょう』であった。

Q1 に対しては、

- 月経がパフォーマンスに影響があることを知った。
 - 無月経が続くと骨が折れやすくなることを知った。
 - 生理用品が沢山あることを知った。
 - 周期の教え方を知った。
 - 月経期間や月経随伴症状など個人差が大きいことを知った。
- などの回答があった。

Q2 に対しては、

- 家族内で話し合える環境づくりをする
- 様子を見てケアをしてあげられるよう知識を身につける
- 月経の日をメモなどして理解することが、サポートにつながる
- 月経そのものをしっかり理解しておく

- 相談しやすい環境をつくる
- 部屋などを暖かくしてあげる

などの回答があった。

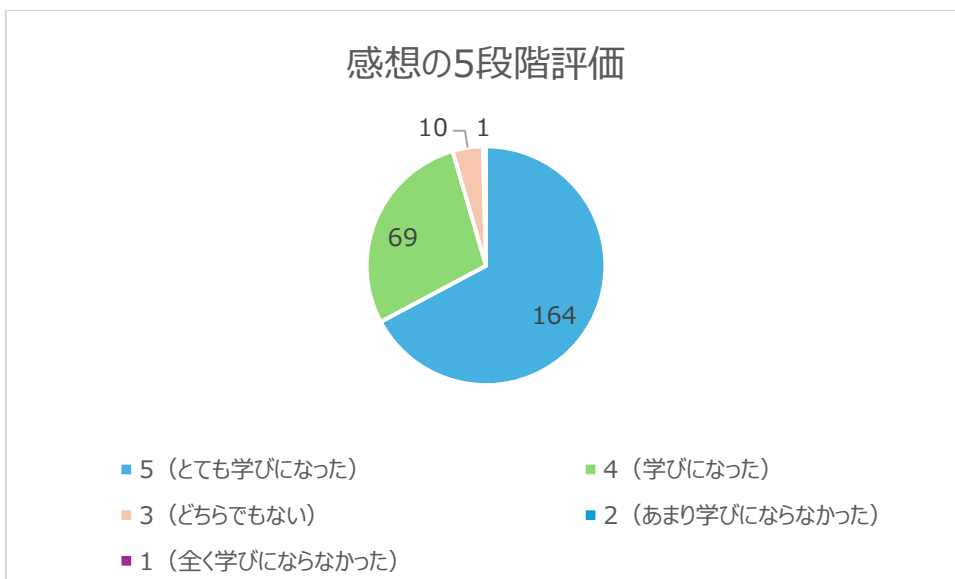
Q3 に対しては、

- 月経など女性の体について学ぶ場を増やす
- 大学の授業に月経について学べる授業を取り入れる
- 月経を体験できる講習会があるのをテレビで見たので、それに参加してみる
- 生理用品を男性でも買いやすい環境にする
- 生理用品を安くする
- 学校で生理について相談できる場所を作る

などの回答があった。

【アンケート結果】

感想について5段階評価（5：とても学びになった、1：全く学びにならなかった）で回答を求めた。



ほとんどの男子学生が学びになったと答えた。

また、自由記述では、今回の講習会で、月経や女性の身体について「知らなかったことを初めて知れた」「理解が深まった」という声が非常に多く寄せられた。生理周期や症状、生理用品、スポーツとの関係など、普段触れる機会の少ない内容を学び、今後の生活や人間関係での配慮の必要性を実感したという意見が目立つ。男性として知識を持つ重要性を感じ、パートナーや周囲の女性への理解と気遣いにつなげたいという前向きな感想が多かった。

【まとめ】

今回はスポーツ科学センターの新しい取り組みとして、男子学生を対象に、身体の基礎知識として女性の月経に関する講習を実施した。開始前は受講の必要性を十分に理解していない学生も見られたが、終了時には「学びになった」と前向きに捉える学生が大半を占めた。今後、男女が共にトレーニングを行う部活動において他者理解が進み、より良い環境でトレーニングを積むことができるようになるとともに、日常的な異性への心遣いにもつながることが期待される。



文責：坂口結子

6) 各部の活動報告

今年度の活動報告として、試合結果・地域貢献活動を中心に各部が報告書を作成した。

	部活動名	ページ
1	サッカー部	24
2	ラグビー部	25
3	硬式野球部	26
4	男子ソフトボール部	27
5	女子ソフトボール部	28
6	女子バスケットボール部	29
7	男子バスケットボール部	30
8	アメリカンフットボール部	31
9	陸上競技部	32
10	水泳部	33
11	弓道部	34
12	ゴルフ部	35
13	卓球部	36
14	硬式テニス部	37
15	バドミントン部	38
16	ダンス部	39
17	合奏研究会吹奏楽団	40

※順不同

2025年度活動報告書（サッカー部）

・公式戦成績

第42回愛知県学生サッカー選手権（天皇杯予選）	3回戦敗退
第72回東海学生サッカートーナメント（総理大臣杯予選）	1回戦敗退
第5回東海学生サッカーリーグ新人戦	1回戦敗退
東海学生サッカーリーグ戦2部	2位 1部昇格
インディペンデンスリーグ東海ローカルステージ	優勝

・地域活動

毎週木曜日に小学生を対象にした少年サッカー教室を開催。
2月に小学生対象の少年サッカー大会を開催。



・2026年度目標

去年の目標である1年間での1部復帰を達成することができたので1部残留、上位の位置を目標に活動していく。学年関わらず仲がとてもいいのでより強いチームワークを組み立て勝利を目指す。

地域の交流やイベントごとに進んで参加、開催し誰からも応援されるチームを作る。



2025 年度 活動報告書（ラグビー部）

■ 2025 年度成績

2025 年度 東海学生セブンズ大会 **第三位**

2025 年度 東海学生 A リーグ **第六位**

■ 2025 年度目標達成度

2025 年度は秋季にある東海学生 A リーグにおいてベスト 4 以上を目標にして活動を行ってきた。しかし、初戦の愛知学院大学戦、次節の金沢学院大学戦に黒星をつけてしまいリーグ戦第六位という結果になってしまった。

■ 2026 年度目標

東海学生 A リーグ ベスト 4 以上

■ 2025 年度地域貢献活動

東海市ハーフマラソン 運営ボランティア



2025 年度活動報告書（硬式野球部）

・ 2025 年度成績

2025 年度愛知大学野球連盟春季リーグ戦（2 部 B）

3 勝 7 敗 6 位 順位決定戦 1 勝 2 部残留

2025 年度愛知大学野球連盟秋季リーグ戦（2 部 A）

5 勝 5 敗 4 位

創立 70 周年行事招待試合 VS 日本体育大学

第 4 回薩摩おいどんリーグ 出場

ベースボール 5 **全国大会出場**



・ 2025 年度の目標達成

「頂戦」～感動・感謝・感激の三感王で 1 部昇格

1 部昇格を目標に 1 年間活動をしましたが、目標を達成する事ができませんでした。今年こそ一体感をもって 1 部昇格を達成できるよう頑張ります。

・ 2026 年度の目標

「一体感」～2 部優勝 1 部昇格

2025 年シーズンで達成できなかった悔しさを胸に、日頃より支えてくださっている保護者の皆様、大学関係者の皆様、地域の皆様への感謝の気持ちを忘れず、部員一同心を一つにして 2 部優勝、そして 1 部昇格を目指して戦ってまいります。

・ 地域貢献

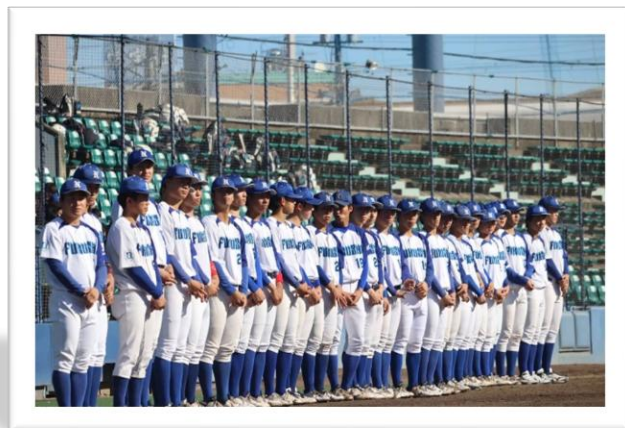
知多半島のマラソン大会（東海ハーフマラソン、美浜タウンマラソン）

創立 70 周年記念行事（招待試合、少年野球教室）

県内高校野球活性化プロジェクト

愛知県高校野球連盟ボランティア

秋季東海地区高等学校野球大会ボランティア



2025 年度活動報告書(男子ソフトボール部)

《2025 年度成績》

【中京テレビ杯 2025 年度春季第 95 回東海地区(男子)ソフトボールリーグ戦】

☆一部リーグ 5 位

- ・ 鈴木健心 プリンススポーツベストテン(三塁手)
- ・ 古田拓人 プリンススポーツベストテン(外野手)

【The 3rd TOKAI Area College Softball Championship 兼第 60 回全日本大学男子ソフトボール選手権大会最終予選】

☆2 勝 1 敗、第 3 代表でインカレ出場権獲得

【第 57 回西日本大学男子ソフトボール選手権大会】

☆初戦敗退

【文部科学大臣杯第 60 回全日本大学男子ソフトボール選手権大会】

☆初戦敗退

【2025 年度第 96 回東海地区大学男子ソフトボール秋季リーグ戦】

☆一部リーグ 5 位

- ・ 戸川雅宏 プリンススポーツベストプレイヤー

【第 26 回愛知県大学(男子)ソフトボール選手権大会】

☆優勝

【愛知県一般男子一部リーグ戦】

☆一部残留

《2025 年度目標達成度》

2025 年度は、インカレベスト 4 を目指し、一年間全力で戦いました。しかし、初戦で二年連続の対戦となる関東 2 位・国士舘大学と対戦し、3-4 でサヨナラ負けと、目標とは遠い結果となりました。しかし、県大学選手権で 2 年ぶりに中京大学に勝利し優勝するなど成長を感じられる 1 年間でもありました。

《地域貢献活動》

半田市クリーンセンターグラウンド清掃

《2026 年度の目標》

2026 年度の目標は、『東海制覇、インカレベスト 8』です。部員数が減っていますが、全員総力で戦い抜きます。昨年度の悔しさを胸に、結果にこだわって活動していきます。本年度も応援よろしくお祈りします。

2025年度活動報告書（女子ソフトボール部）

~2025年度成績~

4月	中京テレビ杯 2025年度春季第85回東海地区大学（女子）リーグ戦	3位
5月	第77回全日本総合女子選手権兼第69回中日本総合予選会 The 3rd TOKAI Area College Softball Championship 兼 第60回全日本大学ソフトボール選手権大会最終予選会	3位 優勝
8月	第57回西日本大学女子ソフトボール選手権大会 文部科学大臣杯第60回全日本大学ソフトボール選手権大会	出場 ベスト 16
9月	2025年度第86回東海地区大学（女子）ソフトボール秋季大会	準優勝



~2025年度目標達成度~

2025年度はチームスローガン「一彩楽最」を掲げ、一昨年のベスト8という成績を越え、“日本一”を目標に日々の練習に励んできた。日頃から応援してくださる保護者の方々や学校関係者の方々、スポンサーの方々の沢山の支援をいただいで成り立っているチームだが、力が及ばず目標としていた日本一へは届かなかった。この結果にチーム全員が悔しい思いをした。しかし、1年を通して競技面はもちろんのこと、組織や学生競技者としてのあり方など、多くの課題を見つけることができた。

~2026年度の目標~

今年のチームスローガンは、心をひとつにするという意味を込めて「One Heart」とした。昨年度の結果を越え、今年こそ日本一を獲るという目標を立て、その過程として、全公式戦で優勝するという目標を立てている。

また、競技面だけではなく、このチームは何のためにあるのかという組織としてのあり方を日々模索し、チーム内で意見を交わしながら、組織力の向上に取り組んでいく。

~地域貢献活動~

- ・JDリーグ補助員・審判講習会運営協力
- ・美浜タウンマラソン補助員
- ・小学生、高校生との合同練習や練習試合
- ・大学キャンパスクリーンキャンペーンへの参加



2025年度 女子バスケットボール部 活動報告書

【2025年度結果】

- 第63回東海学生バスケットボール大会 第3位
第73回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト16
第96回東海学生バスケットボールリーグ戦（1部リーグ） 第3位
第77回全日本大学バスケットボール選手権大会 1勝1敗

【2025年度目標達成度】

2025年度は「インカレ出場、東海2位」という目標を掲げた。
結果はリーグ3位で、インカレ出場・創部以来初勝利をあげた。

【地域貢献活動】

- ミニバスクリニック
日本福祉大学マリンカップ運営
美浜タウンマラソンボランティア

【2025年度目標】

「東海1位、インカレブロックリーグ突破」

チームテーマ：「百花繚乱～感謝の気持ちを持てるチーム、挑戦し続けるチーム～」

チームテーマのもと、一人ひとりが持つ才能や個性を最大限に発揮し、それぞれが輝けるチームを目指す。

また、応援して下さるすべての方々や、バスケットボールができる環境への感謝の気持ちを忘れず、目標達成に向けて日々挑戦し続ける。



2025 年度男子バスケットボール部活動計画書

2025 年度成績

東海バスケットボール大会……………ベスト 16

西日本学生バスケットボール選手権大会
初戦敗退

東海バスケットボールリーグ戦……2 部 4 位 (2 部残留)



2025 年度の目標、

2025 年度の目標としては 1 部昇格を目指しやってきて、その中に**応援信頼されるチーム**になるというのもありました。

去年 1 年間を通して、応援信頼されるチームには慣れたと感じていて、チーム内でも信頼度は徐々に上がって行ったと思います。

1 部昇格はできませんでしたが、

1 年間を通じて、全員が大きく成長した年でした。

地域活動

クリーンキャンペーンなどや、地域のゴミ拾い

2026 年度の目標

2026 年度の目標としては、

去年と変わらず **1 部昇格**です。

また、応援信頼されるチームに今年となれるように頑張ります。

去年のチームで 1 部に行けなかったのが、今年こそは行くために、

日頃から練習の質や、自分たちの意識を高めていき、

ひとつでも多くでも勝てるようにしていき、

1 部昇格を目指していきたいと思います。



2025 年度活動報告書

(アメリカンフットボール部)

1. 2025 年度結果

東海学生アメリカンフットボール連盟 秋季リーグ戦 2部 6位

2. 2025 年度掲げた目標の達成度

2025 年は 1 部昇格という目標を掲げ、リーグ戦へ臨んだが結果は、0 勝 5 敗という結果に終わった。

3. 地域貢献活動

- ・野間海岸の清掃活動

4. 2026 年度目標

【リーグ戦 3 勝】 少ない部員の中でも一人一人が全力でプレーし
泥臭く熱い試合をする！



2025 年度 陸上競技部 活動報告書

★2025 年度成績

- ・【林 彩夢】 日本インカレ出場
 - ・【秋竹 奏音】 全日本大学女子駅伝出場
 - ・『女子駅伝』 東海学生女子駅伝 **総合 2 位(初)**
 - ・『女子団体』 東海インカレ **総合 3 位(初)**
- その他、西カレ **6 名** 出場、東海インカレ上位入賞



★地域貢献

武豊町陸上教室、飯塚翔太さんによる陸上教室のサポートスタッフ

★日本福祉大学陸上競技部主催競技会

本競技会は、美浜町運動公園陸上競技場で**年 9 回**、学生主体で開催された。小学生から社会人、さらには障がいのある方まで、幅広い年代・立場の選手が同一会場で競技を行う点が特徴である。また、本競技会では選手として参加するだけでなく、大会運営に携わり、競技を支える立場を経験できることが大きな学びとなった。



★2025 年度目標達成度

2025 年度は、チームスローガンとして【**初志貫徹**】を掲げた。「初心を忘れず、目標に向かってチーム全体で努力し続け最後までやり遂げる」という意味を込めている。2024 年度は、西カレおよび日本インカレへの出場が叶わなかったため、2025 年度は全国規模の大会への出場者を輩出することを目標として取り組んできた。その結果、2025 年度は西日本インカレに **6 名**、日本インカレに **1 名** が出場することができた。しかしながら、入賞には至らなかった。1 年間の活動を通して、競技面だけでなく、組織運営や学生競技者としての在り方など、多くの課題を明確にすることができた。

★2026 年度のチームスローガンと目標

今年度のチームスローガンは【**日進月歩**】とした。「日々の努力を積み重ね、個人とチームの成長を目指しながら、人としても成長し続ける」という思いを込めている。今年度は、全国規模の大会への出場にとどまらず、入賞を目標として掲げる。また、女子駅伝ブロックにおいては予選会を勝ち抜き、全日本大学女子駅伝への初出場を目指す。個人での成果だけでなく、チームで勝つという意識を大切に、全員で目標達成に向けて取り組んでいく。



2025 年度水泳部活動報告書

【競泳】

第 101 回 2025 年度日本学生選手権水泳競技大会

- 沖莓花 女子 400m 個人メドレー出場/女子 200m 個人メドレー出場
上田唯愛 女子 100m 背泳ぎ出場
女子 女子 4×100m メドレーリレー出場/女子 4×100m フリーリレー出場/
女子 4×200m フリーリレー出場

第 94 回 2025 年度中部学生選手権水泳競技大会

- 女子団体 総合 5 位(日本学生選手権団体出場権獲得)
沖莓花 女子 400m 個人メドレー第 4 位/女子 200m 個人メドレー第 4 位
和田潤己 男子 200m バタフライ第 8 位
水谷柚月 女子 400m 個人メドレー第 8 位
上田唯愛 女子 200m 背泳ぎ第 9 位
杉浦愉羅 女子 200m 平泳ぎ第 10 位
眞弓倅 女子 400m 自由形第 10m



【パラ競泳】

World Para Swimming 公認 2025 ジャパンパラ水泳競技大会

- 岡島貴太 男子 50m 自由形優勝/男子 50m 背泳ぎ優勝/
男子 200m 個人メドレー第 2 位/男子 100m バタフライ第 3 位
井戸夢翔 男子 50m 自由形優勝/男子 100m 背泳ぎ第 3 位/
男子 200m 個人メドレー第 3 位/男子 100m 平泳ぎ第 4 位

第 42 回日本パラ水泳競技大会

- 岡島貴太 男子 50m 自由形優勝/男子 100m バタフライ優勝/男子 200m 個人メドレー優勝
井戸夢翔 男子 50m 背泳ぎ優勝/男子 100m 背泳ぎ優勝/男子 200m 個人メドレー優勝
男子 50m 自由形第 2 位

・ 2025 年度チームスローガン

FIGHT ON～継続は力なり～

一年を通してかなり成長した年だったと思います。チーム力もかなり上がったので来年度に生かしていきたいです。

・ 地域貢献活動

■水泳教室 ■夏祭り ■武豊町水泳記録会ボランティア

・ 2026 年度チームスローガン

努力一滴、勝利の大波

今年度は昨年度よりも大きな目標を掲げている人が多くいるので、一人でも多く目標達成できるように頑張っていきます。

2025 年度活動報告書（弓道部）

◎2025 年度成績

〈5月〉第68回東海学生弓道選手権大会
廣田朱音 女子個人 決勝10位

〈6月〉第59回愛知県下学生弓道選手権大会
佐野朔弥 個人優勝

〈8月〉第60回中日本弓道近的選手権大会
馬路泰成 個人決勝進出

〈9・10月〉第69回 東海学生弓道秋季リーグ戦
男子IV部Aブロック 2勝1敗
女子IV部Aブロック 2勝2敗



◎2025 年度目標達成度

目標：リーグ戦Ⅲ部昇格、各大会で入賞

リーグ戦では、男子が2勝1敗、女子が2勝2敗という結果でした。

各大会で入賞に関しては、個人優勝、女子個人決勝10位という成果はあったものの、多くの大会において「予選突破」の先の「入賞」に結びつけられなかったことが今年度の大きな課題です。目標には一歩及びみせんでしたが、リーグ戦や大会を通して、「自分たちの強み」と「次への課題」を見つけることができました。

◎地域貢献活動

武豊町営弓道場の方々と、普段から定期練習や試合でお借りしている弓道場の掃除を行いました。



◎2026 年度の目標

目標：リーグ戦Ⅲ部昇格、各大会で入賞、団体戦で結果を残す。

昨年の振り返りで見えてきた自分たちの課題と向き合い、練習の質を見直します。先輩・後輩に関わらず積極的に技術を共有し、教え合いを大切に、個人の力だけでなく「チームの総合力」を伸ばします。そして、リーグ戦Ⅲ部昇格、各大会での入賞を目指します。



2025 年活動報告書（ゴルフ部）



1 2025 年度結果

稲垣千夏

4 月定例会 27 位 6 月定例会 20 位 8 月定例会 18 位
中日杯争奪中部学生ゴルフ選手権競技 35 位
中部女子学生ゴルフ選手権競技 新人戦 10 位
第 51 回会長杯争奪中部学生ゴルフ選手権競技 23 位

金谷一希

4 月定例会 1 位 6 月定例会 5 位
中日杯争奪中部学生ゴルフ選手権 1 日目 14 位
2 日目 17 位
2025 年度中部本女子アマチュアゴルファーズ選手権地区決勝 9 位

横山璃周

4 月定例会 中日杯争奪中部学生ゴルフ選手権

甲斐大陸

4 月定例会 8 月定例会

2 2025 年度掲げた目標の達成度

ベストスコア更新、上位大会への出場を目標に掲げましたが、どちらも達成ができませんでした。

3 地域貢献度活動

地域貢献活動として、新南愛知カントリークラブにおいて小学生を対象にスナッグゴルフ教室を開催しました。2026 年度も引き続きスナッグゴルフ教室を開催し、ゴルフの普及、ゴルフを通じた健康促進に貢献していきたいです。

4 2026 年度の目標

私たちはベストスコア更新を目指し、どんな場面でも力を発揮できるメンタルを鍛えていきます。平常心で臨むための反復練習と、練習を休まない継続力を大切にします。



2025 年度部活動報告書（卓球部）

◆2025 年度 成績結果

【団体】

- ・ 7月3日 第94回全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部）出場

【個人】

- ・ 第11回オール西日本大学卓球選手権大会（個人の部）高瀬出場

◆2025 年度目標達成度

- ・ インカレ出場 目標達成



◆地域貢献活動

オープン戦参加、大会運営・補助

地元の各大会に出場し大会を盛り上げることができた。大会の運営・補助を行った際に地域のクラブチームとの交流もあり地域貢献の強化になった。また、クラブチームとの交流関係が多くなったことにより地域コミュニティの活性化に貢献した。

◆2026 年度のチームスローガンと目標

今年のチームスローガン「**一致同心**」

チームが一丸となり心を一つに力を合わせるという意味。



今年の目標「**名を連ねる**」

去年インカレ出場を達成したので、今年はランキング入りを目指していきたい。

2025 年度硬式テニス部活動報告書～2025 年度成績～

令和 7 年度第 75 回東海学生春季テニストーナメント

男子シングルス 稲垣天祥 ベスト 16 三井天翔 ベスト 64 山田凱斗 ベスト 64

男子ダブルス 川野翔汰・松根拓希 ベスト 32 稲垣天祥・三井天翔 ベスト 32

石崎葵貴・傳強志 ベスト 32

女子シングルス 丹羽菜づ名 ベスト 8 大西萌那 ベスト 32 今井心音 ベスト 64

大森美桜 ベスト 64 水野晴菜 ベスト 64

女子ダブルス 丹羽菜づ名・大西萌那 3 位 大森美桜・水野晴菜 ベスト 16

令和 7 年度第 85 回東海学生テニス選手権

男子シングルス 川野翔汰 ベスト 64 稲垣天祥 ベスト 64 三井天翔 ベスト 64

山田凱斗 ベスト 32 高橋匠 ベスト 64 石崎葵貴 ベスト 64 松根拓希 ベスト 32

男子ダブルス 山田凱斗・松根拓希 ベスト 16 稲垣天祥・三井天翔 ベスト 32

石崎葵貴・傳強志 ベスト 32

女子シングルス 丹羽菜づ名 ベスト 32 大西萌那 ベスト 32 今井心音 ベスト 64

水野晴菜 ベスト 64

女子ダブルス 丹羽菜づ名・大西萌那 ベスト 8 大森美桜・水野晴菜 ベスト 32

2025 年度全日本テニス選手権大会

稲垣天祥 予選 F 丹羽菜づ名 本戦 1R 丹羽菜づ名・大西萌那 本戦 1R

令和 7 年度東海大学対抗テニスリーグ戦

男子 II 部 3 位 女子 I 部 4 位

令和 7 年度第 59 回東海学生選抜室内テニス選手権大会

稲垣天祥 ベスト 8 丹羽菜づ名・大森美桜 準優勝 大西萌那・水野晴菜 ベスト 8

令和 7 年度第 76 回東海学生新進テニス選手権大会

男子シングルス 山田凱斗 ベスト 16 三井天翔 ベスト 32 高橋匠 ベスト 32

松根拓希 ベスト 32 石崎葵貴 ベスト 64 傳強志 ベスト 16

男子ダブルス 稲垣天祥・三井天翔 ベスト 8 山田凱斗・松根拓希 ベスト 16

高橋匠・松岡歩武 ベスト 32 佐藤天真・竹山輝利斗 ベスト 16

女子シングルス 今井心音 ベスト 32 大森美桜優勝 水野晴菜 ベスト 4

～2025 年度目標～

男子 I 部昇格 女子 I 部 2 位以上

～地域貢献活動～

8 月 30 日 31 日愛知県車いすテニス大会 in NAGOYA ボランティア

11 月 29 日 (土) にっぶくテニス教室

～2026 年度目標～

男子 I 部昇格

女子 I 部 4 位以上

2025 年度バドミントン部活動報告書

1 2025 年度結果

男子団体一部リーグ

第 140 回東海大会 優勝

第 142 回東海大会 優勝

女子団体一部リーグ

第 140 回東海大会 準優勝

第 142 回東海大会 準優勝

個人

第 72 回中部学生バドミントン大会

ミックスダブルス 優勝 前田流音 鈴川（中京大学）

第 47 回東海学生新人バドミントン大会

男子シングルス 優勝 竹内駿介

2 2025 年度の目標達成度

2025 年度に掲げた目標は「インカレ出場・東海連覇」です。

インカレ出場に関しては、団体ではいくことはできなかったものの、個人でミックスダブルスの前田・鈴川ペアが出場しました。

東海連覇は、無事達成することができ、現在 4 連覇です。この連覇が途切れることがないように日々練習していきます。

3 地域貢献活動

バドミントン部は、周辺地域の主催する大会等に出場しています。

地域の方とバドミントンを通して、コミュニケーションを取るように心がけています。

4 2026 の目標

インカレ出場

東海 5 連覇

この目標を掲げて日々練習しています。



2025 年度ダンス部活動報告書

1.2025年度結果

・9月14日(日) ARTISTIC MOVEMENT IN TOYAMA 2025

少人数による創作ダンスコンクール&エキシビション 参加

富山県で開催された「アーティストックムーブメントin富山 2025」に出演しました。本大会は、ダンスや身体表現を通して自己表現力や創造力の向上を目的としたものです。この大会を通して、技術面だけでなく観る人に伝える表現力の重要性や仲間と協力して作品を作り上げることの意義を学ぶことができました。

2.2025年度掲げた目標の達成度

アーティストックムーブメントin富山に出演し、自分たちで作った演目を披露することに挑戦する。

・概ね達成することができた。

1年生3人と3年生2人の計2チームに分かれてそれぞれテーマを設定して自分たちで一から作りました。

本番では練習の成果を発揮し、自分たちの表現や世界観を観客に伝えることができたと感じています。

一方で、細部の表現や完成度には課題も多く残り今後の改善点を見つめる機会ともなった。今回の経験を通して、作品を一から作り上げて発表する力が身についたと考える。



3.地域貢献目標

・11月9日(日)美浜産業まつり参加

美浜町総合公園にて行われた美浜産業まつりに出演依頼をし出演させていただきました。美浜産業まつりとは、地元の農水産物、特産品、商工業を一堂に集めた地域最大級の産業イベントであり、新鮮な地元の食材が並ぶ「農産物品評会」や「グルメ屋台」、ステージショーなどが楽しめ、ファミリー層を中心に賑わう町を挙げたお祭りです。ステージショーにて踊らせていただき地域の方と関わることやイベントを盛り上げることで、日本福祉大学を知っていただくきっかけを作りました。

・11月2日(日)日本福祉大学同窓会設立70周年記念イベント参加

祝賀会およびNIPPUKU FRIENDS DANCE PARTYに参加させていただきました。

NIPPUKU FRIENDS DANCE PARTYではDANCE SHOWにも出演し、他団体の参加者と合同でパフォーマンスを行うことで、団体の枠を超えた交流を深めることができました。

会場にいた観客や関係者の方々にダンスの魅力を発信するとともに、イベントの盛り上げに貢献することができました。これらの活動を通して地域とのつながりや協働の重要性を実感する機会となりました。

・12月20日(土)自主公演での美浜スポーツクラブダンスサークル「NATTA」様とのコラボ

日本福祉大学美浜キャンパスにて自主公演を開催しました。

自主公演とは、企画・構成・演出をすべて自分たちで行う公演であり、1年の集大成として位置付けられるものです。

そこで美浜スポーツクラブダンスサークル「NATTA」様出演依頼をしコラボ企画を実施しました。外部団体との連携を通して、普段とは異なる視点や表現に触れることができ、作品の幅を広げる貴重な機会となりました。

4.2026年度の目標

「Adaptable」

状況に合わせて体制を整えつつ、私たちのダンスを通してより多くの方に笑顔届けられるようになるが由来です。

この目標を達成できるように様々なイベントに参加してより多くの人に笑顔届けられるようにしたいです。



2025 年度活動報告書（合奏研究会吹奏楽団）

1. 2025 年度結果



- ・吹奏楽コンクール愛知県大会 銀賞
- ・第 44 回定期演奏会

2. 2025 年度掲げた目標の達成度

・2025 年度は吹奏楽コンクール愛知県大会に出場し、金賞を取ることを目標に掲げ、日々練習を行ってきました。結果は銀賞でしたが、去年よりも良い講評をもらうことができました。この経験を活かして更に練習に励んでいきたいと思えます。

3. 地域貢献活動

- ・半田市重要文化財 旧中埜家住宅依頼演奏
- ・みんなの福祉村設立 10 周年企画「アンサンブルによる音楽と言葉のコンサート Life's Door」依頼演奏
- ・社会福祉法人ダブルエッジジェーTS ヒマワリ 依頼演奏
- ・モビリティゲート吹上のマルシェ 依頼演奏
- ・認定特定非営利活動法人 花*花ふれ愛まつり 依頼演奏

4. 2026 年度の目標

・今年の目標は「今やる、すぐやる、最後までやる」です。この目標を掲げた理由として演奏面や行動面などでメリハリや情報共有等、様々な反省点が多く見つかったからです。これらを改善し、雰囲気の良い部活動にしていくために決定しました。それだけではなく、普段の係の仕事も責任を持って一人ひとりが取り組むという意味をこの目標に込めました。学生主体の部活動であるからこそこの目標を大切にしていきたいです。

7) 指導者研修

1. 日時：2月28日(土) 9時30分から11時30分頃まで
終了後 スポーツ科学部教員との懇談会
2. 場所：日本福祉大学美浜キャンパス（対面で実施）、集合：第5会議室
3. 参加者：2026年度強化指定制度対象部活動スタッフ
部長・監督・コーチの役職者は参加必須
4. 司会：三井スポーツ科学センター長
5. スケジュール

時間	項目	詳細
9:30-	開会式／挨拶	・三井スポーツ科学センター長
9:35-	スポーツ政策推進委員長(理事長)からの今後のスポーツ政策について(30分)	
10:05-	質疑応答(30分)	
10:35-	休憩	
10:45-	財務課からの活動経費の運用について(30分)	
11:15-	講評・挨拶／閉会式	・三井スポーツ科学センター長
11:30-	スポーツ科学部教員との懇談会	

6. 実施後の予定

委嘱状等の発行は、この研修会に参加した方（欠席者は動画視聴、レポート提出済）から、3月12日のスポーツ・文化政策委員会の確認後、理事長から発行される予定です。

7. 当日の内容

- ①スポーツ・文化政策推進委員長より、「制度変更期において特別強化指定部・支援部の指導者（部長・監督・コーチ・顧問）に期待すること」で講演を実施し、質疑応答があった。
- ②財務課から活動経費等の運用について、説明があった。

8. 出席者及び欠席者レポートについて

- ・出席者は別紙のとおり。欠席者は、上記動画を確認し、レポートを提出した。

出席者

no	氏名（漢字）	部活名	役職
1	徳山 学	男子硬式野球部・女子硬式野球部	総監督
2	澤井 道久	硬式野球部	監督
3	高山 栄蔵	硬式野球部	コーチ
4	長野 哲也	硬式野球部	サポーターリングスタッフ
5	松橋 秀親	女子ソフトボール部	部長
6	古宇田 佳愛	女子ソフトボール部	監督
7	西井 春菜	女子ソフトボール部	コーチ
8	亀山 哲也	サッカー部	部長
9	前田 仁崇	サッカー部	監督
10	宮崎 完二	サッカー部	コーチ
11	矢田部 希	ラグビーフットボール部	部長
12	首藤 裕貴	ラグビーフットボール部	コーチ
13	木戸脇 正	女子バスケットボール部	部長
14	山本 秀人	女子バスケットボール部	副部長
15	中尾 綾	女子バスケットボール部	監督
16	安藤 佳代子	硬式テニス部	部長
17	廣瀬 大輔	I部バドミントン部	部長
18	村田 敏顕	ゴルフ部	部長
19	関口 健一郎	ゴルフ部	コーチ
20	松田 有司	水泳部	部長
21	坂口 結子	水泳部	監督
22	北村 肇	陸上競技部	監督
23	久保 浩司	陸上競技部	コーチ
24	石川 慎也	アメリカンフットボール部	部長

4. 日福スポーツデー

1. 目的

一般学生に対しスポーツをする場・機会を提供し、学部や学年、スポーツ経験の有無を超えた交流を図る。また、スポーツの魅力を感じてもらう。

2. 日時

<前期>2025年6月9日(月) 18:00~20:30

<後期>2025年12月8日(月) 18:00~20:30

2025年12月9日(火) 18:00~20:30

3. 場所

SALTO1階 スポーツ演習室

4. 内容

室内スポーツを行うことを目的とした団体(サークル・ゼミ・その他:特別強化指定部・強化支援部は除く)に対し、事前申込制で1回2時間半の活動の場を提供する。

5. 参加者

参加グループ数:前期2団体・後期3団体

延べ人数:前期19名、後期26名

(スポーツ科学部:7名、教育・心理学部:1名、社会福祉学部:37名)

6. 参加者からの感想(そのままを記載)

- 社福はみんなですぽーつをやる機会が無いのでゼミ生で楽しくスポーツをできた。スポ科以外にも今後もこのような機会を作ってほしい。
- 楽しかったもっと機会を増やしてほしい
- 楽しかったです。こういう機会を増やして欲しいと思いました

7. 日福スポーツデーの様子（写真）



8. 総括

今年度も一般学生に向けた日福スポーツデーを開催し、サークルやゼミを中心とした団体が利用した。述べ5団体で45名が利用した。なるべく多くの学生が利用できるように、前期・後期で複数日の設定をしたが、申込者数は少なく参加者の延べ人数では昨年度の半数ほどであった。また、一度利用した参加者からの申し込みがほとんどで、新規での利用はなかった。

次年度に向けては、スポーツデー参加者からの要望にも応えながら、一方で他の一般学生向けの企画の検討が必要である。

（文責 中尾 綾）

5. みはまスポーツクラブの活動支援

今年度の実施教室として、昨年度同様に、学内にて「キッズウェルネス教室」、新南愛知カントリークラブにて「ゴルフ教室」の2教室を、スポーツ科学部2年次生授業【スポーツフィールドワークⅠ】の企画として連携し実施している「子どもスポーツ体験ラボ」（小学生を対象とした運動教室）と「にっぶくはつらつ教室」（高齢者を対象とした運動教室）の2教室を開催しました。昨年度「にっぶくはつらつ教室」の参加者増加について言及しましたが、今年度もその良い影響から、昨年度と同様に多くの方にご参加を頂きました。参加者の多さは、運動時の盛り上がりや、参加者の多様な個性の中で実施されることで生まれるユニークさ等、教室の隆盛の一因であると感じる場面が随所に見られました。また、参加者の増加は、町民の運動機会の増加のきっかけの遠因とも言えますので、町の活性化に一躍買う可能性も秘めていると考えます。加えて、様々な人に触れ合い、関わる事が出来る機会は、今後社会に出て活躍する学生にとって、コミュニケーション能力向上や、教室を通じたダイバーシティ&インクルージョンのより良い場となるため、教育においても素晴らしいことであると言えます。これらのことから、来年度は「にっぶくはつらつ教室」を好例とし、全ての教室において、参加者の方にご満足頂ける教室の内容や質の向上を求めると共に、新規参加者獲得に向けた取り組みも並行して実施していければと思います。これは上述のように、町の活性化の要因と、関わる学生の貴重な教育の場とも成り得るものだと考えますので、今後の大きな課題の一つであると認識し、取り組んでいきたいと思ひます。

続けて、教室関連では、今年度も引き続き、学内教員および部活動所属学生のご助力により、スポーツ教室をイベントとして開催することが出来ました。近年では特に数年継続して実施されている教室もあり、昨年度も記載した通り、中間目標達成の好事例の一つと言えます。今後の課題としては、昨年度からの継続となりますが、好評を頂いている教室の開催回数増加や、不定期から定期的な教室として開催する等が挙げられます。加えて、町民から開催ニーズを確認し、多種多様なスポーツ教室の実施を目指し、スポーツ科学部や部活動と密に連携し、新たな教室開催に向けて画策していくことが新たな課題として挙げられます。来年度も皆様に一層充実した教室を提供出来るよう工夫して参ります。

来年度に向けた課題の整理として、美浜町運動公園の更なる有効活用が挙げられます。まだまだ大学主催教室において、美浜町運動公園という素晴らしいロケーションを有効活用しきれていない状況にあります。よって、上述した新たな多種多様なスポーツ教室を、美浜町運動公園を主たる開催場所として定め、良い環境での運動機会の提供を目指して計画してまいります。また、昨年度以前からの継続課題として、終了してしまった教室の復活（例えば、ランニングスクール）や、学生のスポーツに関わるまたは学びを深めるフィールドとしての定着に関する課題について、来年度も取り組む必要があります。教室での関わりのみならず、卒業論文のデータ収集の場としての活用や、スポーツクラブの運営に関わる学生が増加等、今後も学生の積極的参加やそれに伴う場の拡大等を引き続きの目標に掲げていき

たいと考えています。学生個人を筆頭に、スポーツ科学部に留まらず、多くの学部のゼミや部活動、サークルと連携し、みはまスポーツクラブの教室をより良いスポーツの実践および研究の場として活用出来るよう、更なる周知をしていこうと考えております。その活動が活発となり、町やスポーツクラブ会員の方に良い影響を与え、クラブの発展に寄与出来ることを願っています。

中期目標の整理

2025年度は、一昨年度以降の中期目標と揃え、

- ・ 5年後の会員数の増加：540名（全町民の2.5%）
- ・ 町民のニーズに応える新たなサークル活動や教室（4種目）の企画
- ・ 高齢者対象「介護予防教室」を行政と協働で実施
- ・ 日本福祉大学生が開催する教室の参加者拡大および新しい競技の教室開催を企画
- ・ 4年後の「美浜町運動公園」一部供与開始に伴う「学生と町民が交流できるサークル」
- ・ 日本福祉大学生が卒業論文のデータ収集やスポーツ指導員を目指す実践の場としてのスポーツクラブ活用機会の充実（2022年度追記）
- ・ 学生を中心としたみはまスポーツクラブ内のサークル活動の設立（2022年度追記）

の7点を継続した中期目標として挙げました。学生にとっては貴重な学びの場の提供と充実、会員の皆様にとってはさらなる充実した活動内容や提供するコンテンツの質の向上という双方のメリットを高めていければと考えております。その点では、特に「日本福祉大学生が開催する教室の参加者拡大および新しい競技の教室開催を企画」は重要な目標であると認識しており、教室の魅力を伝えると共に、多くの参加者に参加頂けるようなコンテンツ作りに注力をしていければと思っております。

今年度は成果があったからこそ、それ以上に次なる課題が見られた年度となりました。先述の課題を整理し、それが具体的に実施出来るよう、行動に移していくことが来年度は特に重要になっていきます。その際には、本学とみはまスポーツクラブ、町民の方やそれに関連する組織の皆様との具体的な連携と協力が不可欠です。本センターでは、引き続きみはまスポーツクラブおよび美浜町と協働し、地域に貢献する各種事業や交流会を企画し、人と人とのつながりを大切に、ともに支えあえるまちづくりに参画します。併せて、学生のより良い学びの機会提供のため、学内での協働を促進し、大学と共にスポーツ活動の質の向上に努めて参ります。

（文責 福井邦宗）

6. 地域貢献活動

1) 第3回日本福祉大学マリンカップ（能登復興支援大会）

1. 要項（別紙参照）
2. 宿泊者数 160名以上（美浜町・南知多町に宿泊）
3. 審判員（愛知県協会より派遣）※参加費を審判代として利用
4. 後援より
 - ・えびせんべいの里・・・参加賞および個人賞（おせんべい）
 - ・中日新聞・・・チーム（優勝盾・賞状）
5. 結果
 - 優勝：スプライト（埼玉）
 - 準優勝：ワン（静岡）
 - 3位：ジェイスフィア（愛知）
6. 総括

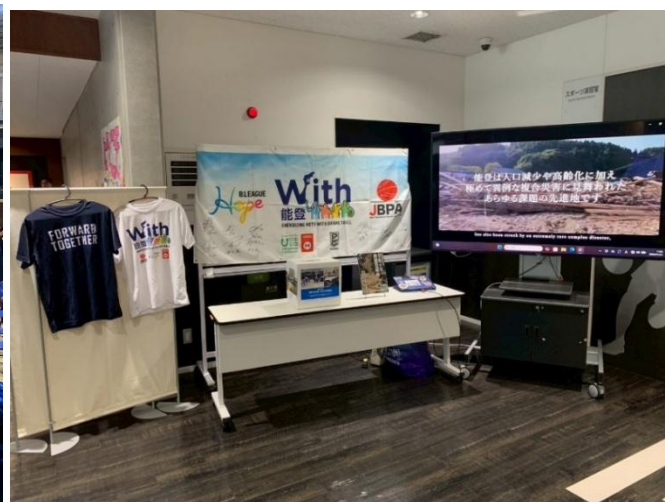
第3回となる今大会は、県内外より12チームが参加した。昨年に引き続き能登半島地震により被災した方々がいる能登ネクストにも参加いただいた。能登半島復興支援大会として、12月に学内での募金活動と、会場にブースを設けて募金活動を行った。総額63,445円の募金が集まり、全額能登ネクストさんへ寄付をした。また、復興に向けた動画を会場入口にて放映し、参加者への関心につながった。大会の運営には、本学女子バスケットボール部員がTO委員としてサポートした。また、愛知県バスケットボール協会の協力もあり、審判員の講習の場としても活用したことで、試合の質を担保しながら進行することができた。

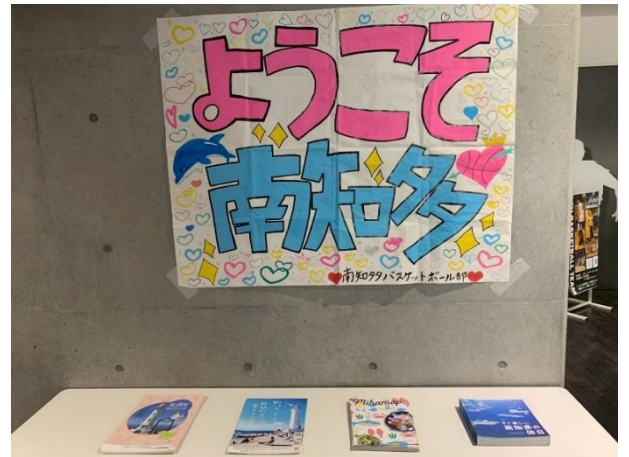
今大会の参加チームの中には全国大会上位チームも複数あり、レベルの高い試合も見られた。第1回から参加しているチームの中には、「この大会で強くしてもらった」「この大会で全国のチームと繋がりができた」と本大会がきっかけとなり活動が活性化している様子が伺えた。リーグ戦形式で、多くのチームが戦え、試合の合間には指導者同士の交流する時間も多く見られた。

大会終了後には、後援のえびせんべいの里に寄っていただき、美浜町の名産を堪能していただき各チームへはお土産も手渡した。今大会を通して地域の活性化を図り、カテゴリを超えてバスケットボール競技の魅力を感じる大会となった。

（文責 中尾綾）

7. 大会の様子





2) 水泳教室

主 旨 クロールが泳げない生徒がクロールを泳げるようになることを目的とし、水慣れ、クロールのキック、手の回し方を練習した。

講 師 スポーツ科学センター 助教 坂口結子／日本福祉大学 水泳部員（補助）

実 施 日 2025年11月2日(日)

時 間 12:00-13:00 小学1-3年生
13:00-14:00 小学4-6年生

対 象 小学1-3年生9名、小学4-6年生4名

参 加 費 無料

総 評

【募集について】

- 美浜町内小学校でのチラシ配布
- 新聞へのチラシ掲載

【教室内容について】

教室内容は1日体験的ではあったが、要点を整理して実施した。顔付け自体を嫌がる子供は少なく、楽しめる水遊び、ボビング、足の使い方、手の使い方、クロールとスモールステップで丁寧に教えた。

対象	実施内容
低学年	水遊び、バタ足、顔付けバタ足、クロールの手の回し方、呼吸なしのクロール
高学年	ボビング、けのび、クロールバタ足、クロールの手の回し方

【教室後のアンケート結果】

教室終了後にアンケートを記載してもらった。回答は4段階評価（1=そう思わない、2=あまりそう思わない、3=そう思う、4=とてもそう思う）で実施した。以下に低学年・高学年の平均値を示す。

低学年アンケート結果

子供への質問	AVE
1 今日教室は楽しかったですか？	4.0
2 先生の教え方は分かりやすかったですか？	4.0
3 お友達と仲良くできましたか？	3.8
4 水泳がうまくなったと思いますか？	3.1
5 できなかったことが出来るようになったと思いますか？	3.2
6 これからも水泳を続けたいと思いますか？	3.8

保護者への質問		
1	教室を通してお子さんが水泳を楽しめていたと思いますか？	4.0
2	水に対して苦手意識や不安が減ったと思いますか？	3.8
3	技術的な上達（顔付け・浮き身・水中移動・泳ぎなど）を感じましたか？	3.7
4	教室を通して、お子さんの自信ややる気が育ったと思いますか？	3.8

高学年アンケート結果

子供への質問		AVE
1	今日の教室は楽しかったですか？	3.8
2	先生の教え方は分かりやすかったですか？	4.0
3	お友達と仲良くできましたか？	2.8
4	水泳がうまくなったと思いますか？	3.5
5	できなかったことが出来るようになったと思いますか？	3.5
6	これからも水泳を続けたいと思いますか？	3.5
保護者への質問		
1	教室を通してお子さんが水泳を楽しめていたと思いますか？	3.5
2	水に対して苦手意識や不安が減ったと思いますか？	3.8
3	技術的な上達（顔付け・浮き身・水中移動・泳ぎなど）を感じましたか？	3.8
4	教室を通して、お子さんの自信ややる気が育ったと思いますか？	3.5

低学年・高学年ともに、楽しく学びのある教室となったことがうかがえる。1日の体験教室でもこれだけの成果があることが分かった。また、これからの水泳を続けたいと考える子供たちも、低学年で3.8ポイント、高学年3.5ポイントと水泳教室の需要の高さがうかがえる。また、保護者へのアンケートからも子供たちの成長を実感する回答が多く、身近で子供たちの成長を見られる機会は貴重であると考えられる。

最後に自由記述では

- 遅い時間帯（17：00頃）を希望する
 - とても楽しそうでした。またやりたいと言っていました。
 - 水泳教室に是非通わせたい。広報や申し込み方法を分かりやすくしてほしい、学校への広告もありがたい。
 - とても楽しく参加していました。鼻をつままないと潜れなかったが、出来るようになった。
 - 去年も参加したが、水に対する恐怖心が無くなってとても成長したと感じた。
 - 励ましを受けながら練習し、最後まで頑張って泳げていた。
- などの回答が見られた。

【まとめ】

今回も小学生を低学年と高学年に分けて水泳教室を実施した。昨年度は申込み後のキャンセルや無断欠席が多かったため、今年度は期限を設けて申込みを受け付けた。その結果、体調不良以外でのキャンセルや無断欠席はなく、円滑に実施できた。内容は水慣れから始めたが、多くの子供たちは顔付けを嫌がることなく、積極的に楽しそうに参加していた。8月に行った水泳部の夏祭り（水泳教室）に参加した子供も見られた。今後、2026年2月頃に水泳部が水泳教室を行う予定であり、今回の教室がそのきっかけとなり、継続的な活動につながることを期待する。

（文責：坂口結子）



日本福祉大学スポーツ科学センター年報 第10号

令和7年度(2025)

令和8年4月発行

スポーツ科学センター関係教員 三井利仁(スポーツ科学部 教授)
坂口結子(スポーツ科学部 講師)
中尾 綾(スポーツ科学部 講師)
福井邦宗(スポーツ科学部 助教)
編集責任 中尾 綾

日本福祉大学スポーツ科学センター 〒470-3295

愛知県知多郡美浜町奥田会下前 35-6

日本福祉大学 Sport Lab SALTO 3階

TEL : 0569-87-2396

FAX : 0569-87-2291

E-Mail : sports-edu-office@ml.n-fukushi.ac.jp
